

所屬	質問内容	回答	参考資料
長谷川委員	<p>【2、3号機海水配管トレンチ 止水・閉塞工事の進捗状況】 水抜き・コンクリート閉塞工事を行った後にも、トレンチ底部には残砂層とそこにしみ込んだ汚染水(残水)が残ると思われ。トレンチ・コンクリートは厚み40cmとのことだが、ひび割れがあったりしてトレンチ外部に漏れ出る可能性はないのか? またその場合に備えた地下水モニタリング体制は十分か?</p>	<p>○海水配管トレンチは、耐震性を考慮して設計し、岩盤に定着しております。残砂についてはトレンチのコンクリートと充填材で閉塞された環境下にあり、地下水と直接触れることはないことから、外部に漏れ出る可能性は低いと考えられておりますが、引き続き、現状の地下水モニタリング体制により、適切に監視していきます。</p>	
	<p>【3号機使用済燃料プール内瓦礫撤去作業中における燃料交換機操作卓他の落下現象の原因・対策】 当該のクレーン・フォーク作業は極めて高度の技術が要求される未経験の作業であると思われる。当たり前すぎることだが、十分な3D画像解析と教育訓練を徹底していただきたい。また実際の現場作業を想定し、誤操作や不十分な操作に備えた対策(例えば今回設置することになったラック養生板など)を十分行っていただきたい。</p>	<p>○瓦礫撤去用のクレーン、把持フォーク操作者の方々は何れも十数年の操作経験があります。今回の瓦礫撤去における落下現象を踏まえ、以下の対策を適切に行います。 ・撤去対象瓦礫の現状確認を確実に実施し、撤去に支障がある場合は3D画像を修正した上で撤去計画を戻直します。 ・作業前には、撤去計画を基に作業関係者による撤去手順・体制確認を確実に実施します。 ・影響緩和対策として追加養生板の敷設を適切に行うとともに、作業時には瓦礫の把持状態について多方向からの監視を確実にいたします。</p>	
	<p>【2号機使用済燃料プール(SFP)代替冷却系の一次系ポンプ(B)のトリップ事象について】 空気作動弁へ空気を供給しているコンプレッサ一装置の操作スイッチが停止状態になっており、またこのスイッチの誤動作(接触)用のアクリルカバーがとりつけられた状態であったとのことである。このコンプレッサがある部屋は、常時作業員が入る場所だったのか? 施設して管理すべきであったのか?などを伺いたい。 本年4月には、使用予定のないポンプが作動し、移送先でない焼却工作建屋地下に汚染水が誤送されたことがあった。その際、誰がスイッチを誤作動させたかが不明だったように記憶している。またそのスイッチがある部屋は施設されていなかったとのことであった。今回のトリップ事象には、この4月のトラブルの反省が十分生かされていないように思う。ヒューマンエラー対策を絶えず徹底していただきたい。</p>	<p>○今年4月に発生した汚染水の誤移送に関連した対策として、操作スイッチのある電源盤(高圧・低圧電源盤)、制御盤および分電盤を対象に施設管理を行うことと致しました。今回のコンプレッサ一操作スイッチは、機器に直付けされており盤ではなかったことから対象に含まれておりませんでした。また、当該コンプレッサ一がある場所は、2号機廃棄物処理建屋の通路に設置されており部屋の中ではありません。 今回の事象を受け、本設備のような重要機器については、設備の構造上、直接機器の操作スイッチを施設管理するのは難しいと考えますが、設備を保護する防護柵等を設けるなど、容易にスイッチ等に触れないための対策を検討します。</p> <p>○ヒューマンエラー対策については、社員の安全意識向上を図り、ヒューマンエラーを絶対に発生させない強い意思を持ってもらうとともに、過去に発生したヒューマンエラーの風化防止のため、11月に「ヒューマンエラー撲滅強化月間」を展開し、以下のような活動を実施しました。 ・ヒューマンエラー撲滅目標の設定 ・過去に発生したヒューマンエラーの振り返り ・重大トラブル事象の原因・対策説明会の開催 今後引き続きヒューマンエラー防止対策を図って参ります。</p>	